

「病院、児童相談所、児童養護施設の 子どものQOL向上あそびワークショップ体験」

子どもの発達には人とあそぶ体験が必要である。病気や障がいのため生活が制限された長期入院の子どもや、親から虐待を受けたり何らかの事情があって制限された空間で暮らさざるを得ない児童相談所や児童養護施設の子どもの対象に、人とふれあってワクワクした楽しい時間を過ごすという子どもの今と子ども時代の QOL 向上をはかり、安心して仲間とあそび声を出して笑ったり自分を表現してコミュニケーションを楽しむ体験を届ける。

報告書



主催：特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-7-16 サンコート新千葉 102 号

TEL : 043-301-7262 FAX : 043-301-7263

Email:kidchiba@lily.ocn.ne.jp URL <http://chiba.gekijou.org/>

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県医師会 千葉県小児科医会

ワーク実施一覧 1-9 病院・児童相談所



	実施施設	プログラム・指導者	日程・場所	協力者	子ども	大人	参加総数	子ども・大人の内訳
1	国立国際医療研究センター 国府台病院	「わくわく工作! オンリーワンを作ろう!」 濱美幸 勝部久美子 井澤智子 奥あゆみ	12月3日(木) 10:40~12:10 院内学級運動場と教室	4	36	11	47	総数 47人 子ども 36人(小学生 7 中学生 29) 大人 11人(小学校教員 3 中学校教員 6 心理士 2)
2	千葉県君津児童相談所	「ダンスワークショップ」 安西真幸 安西千紗 棚田純子 宇野京子	7月30日(木) 13:30~14:40 2F 会議室	4	24	8	32	総数 32人 子ども 24人(幼児 5 小学生 8 中学生以上 11) 大人 8人(施設関係者 8)
3	千葉市児童相談所	「ダンスワークショップ」 安西真幸 安西千紗 宇野京子 棚田純子	8月20日(木) 9:30~10:55 高浜公民館	4	25	8	33	総数 33人 子ども 25人(幼児 5 小学生 11 中学生 8 高校生 1) 大人 8人(施設関係者 8)
4	千葉県市川児童相談所	「見たこともない生き物をつくろう!」 永野むつみ 大沢直 中川香子 岡田泰子	8月25日(火) 9:15~10:30 10:45~12:00 2F 講堂	4	39	8	47	総数 47人 子ども 39人(幼児 8 小学生 18 中学生 13) 大人 8人(施設関係者 8)
5	千葉県中央児童相談所(年少児)	「アフリカンリズム&パーカッション」 モブラン ダウディ 典子 棚田純子	10月1日(木) 10:30~11:30 4F 多目的室	4	20	5	25	総数 25人 子ども 20人(幼児 17 高校生 3) 大人 5人(施設関係者 5人)
6	千葉県中央児童相談所(年長児)	「アフリカンリズム&パーカッション」 モブラン ダウディ 典子 買場都明	10月8日(木) 10:30~11:30 4F 多目的室	4	36	6	42	総数 42人 子ども 36人(小学生と中学生) 大人 6人(施設関係者 6)
7	千葉県東上総児童相談所	「ダンスワークショップ」 安西真幸 安西千紗 買場都明 棚田純子	10月26日(月) 13:30~15:10 (幼児 13:30~ 男子 14:00~ 女子 14:30~) 2F 多目的室	4	20	7	27	総数 27人 子ども 20人 (幼児 3 小学生~高校生 17) 大人 7人(施設関係者 7)
8	千葉県銚子児童相談所	「人形劇&ワークショップ」 納富俊郎 納富祥子 買場都明 滝口淳子	10月29日(木) 13:30~14:40 2F 大会議室	4	14	6	20	総数 20人 子ども 14人(幼児 4 小学生 4 中学生 4 高校生 2) 大人 6人(施設職員 6)
9	千葉県柏児童相談所	「ダンスワークショップ」 安西真幸 安西千紗 棚田純子 椎名好子	11月13日(金) 9:35~11:45 (男子 9:35~ 女子と幼 10:40~) 所庭	4	34	13	47	総数 47人 子ども 34人(幼児 11 小学生 16 中学生 7) 大人 13人(施設職員 13)



ワーク実施一覧 10-20 児童福祉施設



	実施施設	プログラム・指導者	日程・場所	協力者	子ども	大人	参加総数	子ども・大人の内訳
10	一宮学園	「BBモフランのアフリカンパーカッション」 BBモフラン ダウディ 典子 棚田純子	8月17日(月) 10:00~11:00 体育館	4	40	15	55	総数 55人 子ども 40人(幼児3 小学生31 中学生以上6) 大人 15人(施設関係者11 実習生4)
11	野の花の家	「アフリカンリズム&パーカッション」 BBモフラン ダウディ 典子 買場都明	8月20日(木) 13:30~14:30 ホール	4	14	13	27	総数 27人 子ども 14人(幼児5 小学生9) 大人 13人(保育士・児童指導員8 職員5)
12	放課後等デイサービス グリーンヒル キッズゆりの き台	「紙しばいつくってあそぼ!」 大崎あけみ 岡田泰子 鈴木佳子 中川香子	10月21日(水) ①ゆりのき台教 室13:40~14:40	4	10	3	13	総数 13人 子ども 10人(小学生10) 大人 3人(施設関係者3)
13	放課後等デイサービス グリーンヒル キッズ村上	「紙しばいつくってあそぼ!」 大崎あけみ 岡田泰子 鈴 木佳子 中川香子	10月21日(水) ②村上教室 15:30~16:15	4	8	4	12	総数 12人 小学生(8人) 施設関係者(4人)
14	大成会不二学 園	「第一部冬のおはなし・第2 部作ってあそぼう」 飯野真子 古賀恵美子 高橋裕美 松本祐子	12月8日(火) 1部 10:00~ 2部 10:30~11:15	4	6	8	14	総数 14人 子ども 6人(幼児6) 施設関係者 8人
15	放課後等デイサービス アフタースク ールむぎ畑	「のんびり&じっくりクラフ トタイム」 市川淑江 椎名好子 塩沢千秋 長谷川詠香	1月5日(火) 13:30~15:30 学習室	4	10	6	16	総数 16人 子ども 10人(小学生7 中学生3) 施設関係者 6人
16	野菊野子ども 館	「ダンスワークショップ」 安西真幸・安西千紗・ 宇野京子 棚田純子	2月13日(土) 13:30~14:30 ホール	4	11	11	22	総数 22人 子ども 11人(小学生11) 大人 11人(施設関係者4 保護者7)
17	児童発達支援事業所 結	「おさんぽぶたさんと遊ぼう」 加形ふみ子 買場都明 宇野京子 井澤智子	2月22日(月) 10:00~11:00 保育室	4	10	6	16	総数 16人 子ども 10人(1~3才6 4~6才4) 大人 6人(施設関係者6)
18	放課後等デイサービス ハクナマタ	「革のアクセサリを作ろう!」 井澤智子 買場都明 楠千枝子 斯波優江	2月26日(金) 15:00~16:00 活動ルーム	4	10	7	17	総数 17人 子ども 10人(中学生4人高校生6) 大人 7人 (施設関係者7)
	合計 1~18	指導者 72		72	367	145	512	



①国立国際医療研究センター国府台病院「わくわく工作!オンリーワンを作ろう!」

日時：2020年12月3日(木) 10:40~12:10
 場所：院内学級の運動場と教室
 (国府台小学校 市川第一中学校)
 参加者 47人
 (子ども 36人 病院関係者 11人)
 指導者：濱美幸 勝部久美子 井澤智子 奥あゆみ

ワークショップの内容
 キラキラビー玉の万華鏡
 革細工
 小さなスポンジケーキ(ペットボトルキャップにマグネット付き)



自分で選べないと言う子に「どれを選んでも合そう!!」と言うと時間がかかったが悩んで自分で決め、その後も何回か「どうしたらいいですか?」と聞いてくるが、どんどん自分で作業を進める姿が変わった。自分の思いで、自由に作れる、のんびりとぼーっと試行錯誤していい時間が、意欲をかきたてていた。革細工とスポンジケーキは、「いくらでも作っていいの?」「いくらでも材料つかっていいの?」と、かなりリラックスして、のびのび挑戦的に取り組みだした。材料を選ぶ時は友達や先生としゃべり合い賑やかだったが、いつの間にか静かになってきた。一人一人が、夢中になって取り組み、個性的で、自分が満足する作品を作っていた。充実した顔で楽しそうだった。

子どもの声

- ・すごく楽しかった。万華鏡作ってのぞいたら、花になったし、革のやつもいいもの作れたし、スポンジケーキもたのしく作れた。けっこういいけいけんができた。
- ・私はいろんな動物を作れてとても楽しかったです。革細工や万華鏡ははじめてだったので作れるかふあんだっけど教えてもらって完成できてとても嬉しかった。
- ・ケーキをつくるのがたのしかった。

施設関係者の声

集中して仕上げた作品を満足そうに見せてくれる姿が印象的だった。今年はいろいろな学校生活の活動が中止になり、人とのつながりや、学校外の場所に行くことがなかったため、入院中の子どもの知的好奇心が高まらないと感じていた。自分の創造力を大きく膨らませ自由に表現できる事ができた。今回行った内容を自分でやってみたいと言う生徒もおり、いちどきりでなく、今後の生活のQOLの向上にも繋がったと感じた。

②千葉県君津児童相談所「ダンスワークショップ」

日時：2020年7月30日(木) 13:30~14:40
 場所：2F 会議室
 参加者 32人
 (子ども 24人 施設関係者 8人)
 指導者：安西真幸 安西千紗
 棚田純子 宇野京子

ワークショップの内容
 準備運動 ストレッチ 足ジャンケン
 ダンス振り付け WEST「ええじゃないか」
 ダンス発表



「トゥース!」が、全員そろった。カッコいい!

子どもの声

- ・とてもたのしかった。ダンスをして気分がよくなった。
- ・先生たちのノリがすごくよくて、オリジナルのダンスを作って踊るのが楽しかった。
- ・自分たちで振りを考えたり声かけを考えたりしてとっても楽しかった。運動は嫌だったけどとっても楽しく踊れてよかった。
- ・ダンスは得意じゃないけど、まあちゃんと一緒にダンスをするのが楽しかった。まあちゃんとならダンスをしたい。まあちゃんがダンスをしている姿はとってもカッコよかった。

「動いて汗かいてダンスっぽくやるよ、できなくてもいい、やってみようかなと動いてね。心はジャンニーズ!」と、ハードルを下げてくれて、子どもたちは緊張感が緩んでほほ笑んだ。足ジャンケンでグー・チョキ・パー、大きな笑い声となる。曲に合わせて「なんでやねん」「どないやねん」…6パターンのダンスをみんなで考え、中学生男子がぐるっと回って「トゥース!」指を高く掲げた。「あ、それいただき!」。いつの間にかダンスが出来あがっていた。

施設関係者の声

- ・「失敗するのが怖い」と後ろ向きな反応を示すかと思っていたが、意見を出しやすい雰囲気や、できなくても楽しもうという声かけが、子どもたちの積極的な取り組みにつながった。
- ・「うまい」「へた」とか「できる」「できない」などの優劣がつかない環境の中で、伸び伸び自己発揮できることが、特に相談所の児には必要であると改めて感じる。



③ 千葉市児童相談所「ダンスワークショップ」

日時：2020年8月20日（木）
 ①9:30~10:10 ②10:15~10:55
 場所：高浜公民館
 参加者 33人
 （子ども 25人 施設関係者 8人）
 指導者：安西真幸 安西千紗 宇野京子 棚田純子

ワークショップの内容

準備運動 足バランス ダンス振り付け 女子はNiziUの「Make you happy」 男子はゆずの曲
 ダンス発表

集まった時からテンションが高く元気いっぱいだった。足バランスの上手な女の子に歓声や拍手、男の子の逆立ちや側転の頑張りに、指導者が皆に「ナイス！」と声をかけたので、自慢げに繰り返していた。ダンスは子どもたちとアレンジ。床にテープを貼ってのステップ練習もわかりやすく、みるみる上手になった。最後は青い布を使って、女子は波に見立て、思いっきり飛び越えてくぐって鏡の前でポーズ。男子は青い布をプールの水面に見立て、シンクロスイミング、逆立ちして足をバタバタする子、側転をする子。全員が表現することができ、シンクロ大成功！

子どもの声

・今日のダンスはすごく教えがうまくて、すぐ覚えることができた！おもしろい教え方だったので他の子も楽しむ事ができたと思う。いっぱいほめてくれて、うれしかった。最後のジャンプするやつが最高だった。
 ・じそうでは、ダンスが外しかできません。最近熱中症アラートが出て外でもができませんので、久々にダンスができて良かったし楽しかった。
 ・最初は少しいやだな～と思っていたが、だんだん楽しくなってきた。最後の逆立ちが楽しかったのとダンスが楽しかった。

施設関係者の声

・「失敗しても大丈夫」という温かい雰囲気、ダンスや人前でパフォーマンスするのが苦手という児童も、楽しく体を動かさせた。本物のダンスに触れることが少ない中、貴重な経験をする機会となった。
 ・全員の子が楽しめるように声掛け指導をしてくださり感謝です。終わっても、ステップを踏んだり、フリフリしたりして楽しそうに踊っていました。日常生活では、けんかや暴れるのが絶えませんが、和やかに仲良く関わっている様子を見て心がほっこりした！！



波に見立て、思いっきり飛び越え

④ 千葉県市川児童相談所「見たことのない生き物をつくろう！」

日時：2019年8月25日（火）
 ①9:00~10:30 ② 10:45~11:55
 場所：講堂
 参加者 47人
 （子ども 39人 施設関係者 8人）
 指導者：永野むつみ 大沢直 中川香子 岡田泰子

ワークショップの内容

スカートをはいた女の子の短いお話の人形劇
 工作 見たことのない生き物を作ろう



お話に合わせて一枚の紙がどんどん変化する人形劇を食い入るように見ていた。工作は、一面に拵げた封筒や紙袋から好きな色を選ぶところから、真剣に悩んでいた。たくさん魅力的な道具をとりあえず使ってみて、びっくりニコリ。型抜きがサクッとできて「気持ちいい、ストレス発散だ」と楽しんだ。できた!と、口から紙を丸めたボールを飛ばす生き物で先生や友達に遊び始めた小学生に、みんなが面白いねとニコニコ、でも自分たちの手元を休めようとしな。シュレッダーでわさわさの羽をつくった子も得意顔。中学生は、とても静かに黙々と作業をした。



子どもの声

・たくさんかざりといろんなものをつけてたのしかった。
 ・皆の作っている姿がとても嬉しくて楽しかった。イライラした時は、人形を作ったことを思い出しておちつけます。
 ・一番楽しかったことは他の人の作品を見ながら作ること、自分が考えてなかったことをしているのとてもおもしろかった。
 ・さいこうの日でした。しっばいしてとりになったけど、ほめてくれて、やるき出た。

施設関係者の声

・ある中で自由に考えて作っていいよ!!と言われ、子どもたちは目をかがやかせて好きな作品を作る経験をした。こういう経験はなかなかできないのでありがたく思っている。生活発揮能力は向上したと思う。
 ・「まわりを見てまねして良いんだよ」という言葉が安心につながったようだ。困ったときはまわりの子を参考にして良いんだという経験ができてうれしそうだった。
 ・子どもの沢山の笑顔を見られて幸せな時間になった。

⑤ 千葉県中央児童相談所(年少児)「アフリカンリズム&パーカッション」

日時：2020年10月1日(木)10:30~11:30
 場所：4F多目的室
 参加者25人
 (子ども20人 施設関係者5人)
 指導者：BBモフラン ダウディ 當間典子 棚田純子

ワークショップの内容
 「ジャンボ」演奏と手拍子 ライオンキング ライオンズスリーピング
 トゥナイト マ・メ
 太鼓体験 マライカ ダンス



最初の「ジャンボ!」の演奏が終わったら、大きく元気な声で「ありがとう!」と女の子たちが自然に声を発した。指導者は顔を見合わせて「すごいね!」と感心し、先生方もうれしそうだった。素直で無邪気な幼児たちが最初から乗っていた。「太鼓たたきたい人?」に「はい!はい!はい!」と、何人も元気よく手をあげ、やりたい太鼓に向かって走っていき、「ぶーたにく・・・」のリズムにそれなりに合わせてたたくのがほほえましかった。高校生がたたく時には太鼓の周りに幼児が集まってきた。



子どもの声

- ・たいこがたのしかった。ありがとう。
- ・たいこばたばたしてたのしかった。
- ・かっこよかった。
- ・一番印象に残ったのはラインキングの歌だ。歌が上手でうらやましかった。あと「天使」です。
- ・幼児さんが喜んでるのを見て、心から楽しめた。とても素敵な音楽だった。

施設関係者の声

- ・皆笑顔で、生き生きしていた。初め緊張していたが、太鼓を打ってみることで表情がよくなった。
- ・自粛期間が長く続き、今回が初の外出となった。テレビやCDの音とは比べものにならないくらい、生演奏ならではの効果を実感した。
- ・生で聞く音楽の方が子どもたちの感覚や感情に触れ、豊かな感覚や感情の発達につながり、QOL向上につながったと思う。

⑥ 千葉県中央児童相談所(年長児~中学)「アフリカンリズム&パーカッション」

日時：2020年10月8日(木)10:30~11:30
 場所：4F多目的室
 参加者42人
 (子ども36人 施設関係者6人)
 指導者：BBモフラン ダウディ 當間典子 買場都明

ワークショップの内容
 「ジャンボ」演奏と手拍子 ライオンキング ライオンズスリーピング
 トゥナイト マ・メ
 太鼓体験 マライカ ダンス



中学生の男子が初めから乗って全体を引っ張り盛り上げた。指導者がライオンキングに出演していたと聞き小学生女の子が「えーっ!」「うっそー!」と驚き、ライオンキングの歌やリズム打ちに表情が和らいだ。太鼓体験では、すぐに全身でリズムをたたき始めた子がいて指導者も「すごいね」と目をみはった。「なまにくたべたいな」「いのししたべたいな」とリズムを言うと、女の子達は「えーっ!」と驚き笑って「たべたくない!」とか好きな食べ物を言ってやりとりを楽しんでいた。モフランさんの話を年長の女の子たちは面白がってよく笑っていた。ダンス♪頭 肩 腰 ぶるぶるる…に男子が乗った。前に出た中学生は、満面笑顔で踊りまくった。ダンスが好きらしい女子が前に出て、楽しそうに笑顔で思いっきり踊ってはじけた。ダンスでみんなが一つになった。ずっと身体も表情も硬かった女兒が、太鼓体験から握りしめていた手もほどけて笑顔になり、最後のダンスでは飛び跳ねるように踊った。子どもの気持ちの変化がよく見て取れた。



子どもの声

- ・たいこを「ぶたにく ぶたにく・・・」でたたけておもしろくて、ぼくもぶたにくをたべたくなってきて、本当におもしろすぎてたまらなくなった。
- ・すごすぎてとりはだがつた。
- ・時間を忘れるほど楽しく、自然の笑顔がでちゃいます! 頑張ってください。応援しています。
- ・自分の知らない世界にはいろいろな物があって、何事も挑戦ということを知った。

施設関係者の声

- ・中学生の男子たちが前に出て全身弾ませて踊る姿にびっくり。いつもと違う。中学生は普段はおとなしく、大きな声を出す等はじけた様子は見たことがない、驚いた。
- ・毎日よりも違うことをできるということはそれだけでもQOL向上につながったと思う。

⑦ 千葉県東上総児童相談所「ダンスワークショップ」

日時：2020年10月26日（月）
 ①13:30～13:50 ②14:00～14:30 ③14:30～15:10
 場所：2F 多目的ホール
 参加者 27人
 （子ども 20人 大人 7人）
 指導者：安西真幸 安西千紗 棚田純子 買場都明

ワークショップの内容
 男子は「鬼滅の刃」
 女子は NiziU の「Make
 you happy」



3回に分けて実施。幼児は、ゴロンってできるかな？と指導者の投げかけに寝転がり、手足バタバタも真似っこしていた。低学年は、みんなノリノリ。鬼滅の刃の技も入れてダンスが出来上がり、ロープの飛び終わりが曲とピッタリ合って「すごーい」の声。「やったね！」と満足気な笑顔だった。女子は、知ってる子が教え合い、みんな踊れるようになり笑顔。

子どもの声

- ・はじめてダンスして、ぼくはとてもたのしかった。ダンスむりだったけど、だんだんダンスがうまくなりそうだった
- ・普段あまり話さない子と、音楽に合わせておどってみたら、その子のことが、すごくよくわかって、今では一緒にあそぶ仲になった。あらためて音楽にあわせてダンスするすごさに気づくことができた。
- ・いつも同じ日課を過ごし、たいくつしていた。ですが、一緒にダンスを踊って体を動かして楽しかった。ストレス発散になった。

施設関係者の声

- ・音楽に合わせて体を動かす楽しさを感じ、思ったことや感じたことを体で表現できQOL向上の成果があった。
- ・ワークショップ後も、「ダンスをしたい」という声も出てきた。QOLの構成領域の中の「身体的領域」「心理的領域」において向上が図られたと思う。具体的には体の動かし方や体力の向上、ポジティブに働く心理的影響が挙げられると思う。
- ・普段と違う顔ぶれで違うことをして非日常が楽しかったようだ。

⑧ 千葉県銚子児童相談所 「人形劇&工作ワークショップ」

日時：2020年10月29日（火）13:30～14:40
 場所：2F 会議室
 参加者 20人
 （子ども 14人 施設関係者 6人）
 指導者：納富俊郎 納富祥子 買場都明 滝口純子

ワークショップの内容
 ＊「スーパー人劇」スーパーの袋で動物や人物を作って遊ぶ・封筒で生き物を作ってお話を作る
 ＊ひとり人形劇「あかずきんちゃん」
 ＊工作ワーク「ばたばたちょうちょ」を作って遊ぶ



人形劇が始まると、すぐに笑い声が上がった。スーパーの袋が次々と動物に変わると名前を言い当て、幼児は立ったり前のめりになって体中で楽しんでた。ひとり人形劇、小さな舞台におおかみが登場すると小学生の表情が変わった。おおかみの問いかけに言葉のキャッチボールが始まり、おおかみも本気で何度も言葉を返した。子どもも負けじと返した。生のおしばいのすごいところだ。登場人物のひとりになっていた。子どもたちはあかずきんちゃんを助けようと大声援が起こった。中学生も肩が小刻みに揺れて楽しんでいる様子が伝わってきた。工作「ばたばたちょうちょ」はたくさん色画用紙や型があり、迷いながら選び、細かい作業も最後までやり抜いた。幼児は「シールをいっぱい貼って、もうひとつ作っていい?」、中学・高校の女子はデザインにこだわり「シンプルが一番よね」ときれいなちょうちょ、個性的で自分なりに工夫を凝らしたちょうちょが出来上がった。

子どもの声

- ・スーパーの袋が出てくると「ビニール? え〜??」何がおきるんだろう。
- ・あかずきんちゃんを助けようと「あかずきんちゃんきてないよ」「だめだめ、入っちゃだめ」「おおかみがいるよ」
- ・「写真とって〜」と先生が構えるカメラに作品を見せた。「先生もう1回やりたーい」あちこちから「先生見て〜」

施設関係者の声

- ・ひとつの袋からあんなにも沢山の動物や人物を作れることに驚き、最後の工作の時間に動くちょうちょを制作した時、スポンジのみであんなにも動く羽を再現できることに感動した。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。
- ・工作に没頭している姿を見て、よい経験ができたと感じた。作品の出来栄えに子どもたち、それぞれの個性が反映されていて興味深かった。

⑨ 千葉県柏児童相談所「ダンスワークショップ」

日時：2020年11月13日（金）
 ①9:35～10:25 ②10:35～11:30
 場所：所庭
 参加者 47人
 （子ども34人 施設関係者13人）
 指導者：安西真幸 安西千紗
 椎名好子 棚田純子

ワークショップの内容

ウォーミングアップ(新聞紙庭に散らばせてジャンプ移動他)
 第一部男子「鬼滅の刃」の曲で剣士になりきりダンス 第二部女子と幼児 NiziUの「Make



第一部 準備体操で手を後ろに回し、ぼく柔らかいよと、やって見せた。指導者が「〇〇くんすごい！」「みんなみて！」と言うと互いにマネしていた。ブリッジ、逆立ちの様に足上げ、側転したりと活発に動いた。第二部 行きますよー、の合図に「ハイ！」「わーい！」とウキウキしたようすの幼児。中学生女子も音楽がかかると、「知ってるー」とリズムカルに踊り出した。ダンスは好きみたい。みんなニコニコ。



子どもの声

- ・さかだちして足で拍手するところ、さかだちして回って立つのもむずかしかった。しゅぎょうのところを考え、だいい手をつかめた。たのしかったりむずかしかったりあったたのしかった。
- ・「鬼滅の刃」がすきなのでうれしかった。ちょっとむずかしいところもあったけどわかりやすく教えてくれてうれしかった。最後の新聞を切るやつが楽しかった。
- ・NIGIN は新しくできたグループで、ずっとおぼえようとしていたダンス。少し苦戦していたランニングもできるようになった。
- ・あんまり外に出られないのでまた来てくれるとうれしい。コロナに気をつけてください。

施設関係者の声

- ・ふだん新聞紙を破ったりすることがないので発散できたと思う。みんな身のこなしがよく、はりきってよく動いていた。
- ・大きな女の子たちがあんなにやるとは思わなかった。ダンスは好きなんですね。
- ・気分転換や心の開放につながったのではないかなと思う。また、普段目立たない児童の違った一得意なことを知るきっかけになった。
- ・”できた”という体験が多く、自己肯定感が低い子どもたちにとっては意味が大きいと感じた。

⑩ 一宮学園「アフリカンリズム&パーカッション」

日時：2020年8月17日（月）10:00～11:00
 場所：一宮学園体育館
 参加者 55人
 （子ども40人 施設関係者15人）
 指導者：BB モフラン ダウディ 當間典子
 棚田純子

ワークショップの内容

演奏の鑑賞（ジャンボの歌）、
 アフリカの太鼓体験とダンス
 体験 歌と演奏（マライカ）



指導者の位置から5メートル離れて座る。何となくグループが出来ている感じで笑いながら話していた。小学生高学年の男の子たちは後ろの壁の前に並んで座った。指導者が入場に、壁際の男の子たちも手拍手で迎えてうれしそう。「ま め」の歌に合わせリズムをとると、ちょっと表情のなかった男の子たちも笑顔で思わず「まめ」と一緒に歌った。太鼓やりたい人！に手を挙げたのは小学校低学年8人。3歳くらいの男子が太鼓の前に座り満面の笑顔！小さい手でしっかり叩いた。リズム「生肉、生肉食べたいな～」では「食べたくない！」コールが出てみんなで大笑い。ダンスでは昨年参加した子どもたちが覚えていたのか、腰の振り方が上手に出来ている。アンコールのソーラン節に笑い声が出た。小学生の男の子たち5人くらいがソーラン節の踊りを歌に合わせ踊っていた。

子どもの声

- ・コロナに気をつけて下さい。たのしかったです。
- ・みんなでダンスをしたりたいこをたたいたりしてたのしかった。またきてください。
- ・音がおおしくてびっくりしたけどたのしかった。たいこもつかえなくてよかった。
- ・うたやたいこの名前をおしえてくださいますてありがとうございます。

施設関係者の声

- ・なかなか普段触れることがあまりない音楽や楽器に触れることができてとても楽しかった。音色、声色がとても心地よく、心があらわれました。子どもたちも「楽しかったー！」と嬉しそうだった。ありがとうございました

⑪ 野の花の家「アフリカンリズム&パーカッション」

日時：2020年8月20日（木）13:30~14:30
 場所：ホール
 参加者 27人
 （子ども14人 施設関係者13人）
 指導者：BBモフラン ダウディ 富間典子
 買場都明

ワークショップの内容

ライオンキング「what a wonderful world」 マライカ リズム体験「マ・メ」 太鼓体験：8人ずつ、ジャンベとドウンドンバの両方を体験 ダンス：「ハクナマタタ」「ソーラン」



保育士の膝の上で抱っこ、くっついて・・始まった。太鼓の音がうるさい！と手で耳を押さえる子や、控えめな子もいたが、すぐにノリのいい幼児が笑顔と声を出して反応し始めた。「マ・メ」で段々に声が大きくなった。太鼓体験では先生の手の上に自分の手を乗せて一緒にたたいていた子どももいたが、ポジションを交代して2回目は、先生がいなくてもうれしそうにたたく子どもの変化に驚きだった。「なまにく たべたくない」でたたくことが、おかしくてうれしくて面白く、全員がいい笑顔になった。ダンス大好きな女兒が、指導者とすごくカッコよく踊りイキイキとした顔と全身に満足感と嬉しさが出ていた。「やったことは全部覚えた。できる！」と話した。

子どもの声

- ・たいこをたたくのがとても楽しかった。特に楽しかったのは、牛の皮でできているたいこだった。
- ・音楽やおどるのが大好きなので、きてくれてとても一つもうれしかった。まだおしえてもらったうたやダンスはおぼえている。
- ・たいこのれんしゅうはさいしょきんちょうしたよ。でもいろいろなものがうまくて、そのうたのしい。きよくをきいてげんきがでたよ。きんちょうかんもとばされたよ。
- ・ダンスがむずかしかったけどどうんだうになった。いろいろなダンスをおどりたい。



施設関係者の声

- ・暑い中、汗びっしょりかきながら子どもと一緒に楽しんだ。同時に、アフリカの国の文化に触れたりコミュニケーションが持てたりできるステキな体験だった。
- ・演奏者のみなさま、とても楽しい時間でした。大人も子どもたちも笑顔いっぱいのステキな時間で、子どもたちの日々の遊びの中でこれからも一緒にやっぴいこう、と思った。

⑫ 放課後等デイサービスグリーンヒルキッズゆりのき台「紙芝居をつくってあそぼ！」

日時：2020年10月21日（水）
 13:40~14:40
 場所：ゆりのき台教室
 参加者 13人
 （子ども10人 施設関係者3人）
 指導者：大崎あけみ 岡田泰子 中川香子 鈴木佳子

ワークショップの内容

本の読み聞かせ「どうぶつサーカス」紙芝居「ねずみちょうじゃ」封筒かみしばい作り



絵本をじーっと見て、ライオン、カンガルーの愉快な芸に、指導者が「拍手をお願いしま〜す！」と言うと揃って楽しそうに拍手した。「5,4,3,2,1」とみんなでカウント、ピンクのブタが「おかあさん！」と叫びながら空をとび、みごと渡ると、足をバタバタさせて喜ぶ子もいた。高学年の子は、封筒紙芝居に夢中になった。封筒いっぱいにキラキラシールを貼った。「鬼滅の刃を描く」という子に「私も見てるよ〜、おもしろいよね〜」と声をかけると「やったー！」と張り切っていた。「スーパーマリオ」の話を描く子、電車の連結を描く子、算数の数式を何枚も書く子、おしゃべりしながら賑やかに制作した。思い思いの封筒紙芝居が出来上がって、みんな満足そうだった。



子どもの声

- ・「楽しかった」
- ・「面白かった」

施設関係者の声

- ・支持を必要とする子どもたちが多い中、自分で考えて絵を描き、ストーリーを作り上げていく様子（一人も脱落することなく）は、子どもの表現する力を発揮することができた。あいさつやお礼が言えることで、さらに社会性のスキルにつながった。新しいことへの挑戦が、スムーズに実践でき、環境への適応の向上が伺えた。
- ・子どもたちが、とても楽しく参加をし、作品を作って友達同士で見せ合いをして、とてもいい会でした。利用者全員が一つの活動に取り組むことが難しい場面が多い日々の中で、このようなワクワク体験ができ、有難く思う。子ども達もとても満足した表情を見せてくれた。

⑬放課後等デイサービス グリーンヒルキッズ 村上「紙芝居をつくってあそぼ！」

日時：2020年10月21日（水）15:15～16:15
 場所：村上教室
 参加者 12人
 （子ども8人 施設関係者4人）
 指導者：大崎あけみ 岡田泰子 中川香子 鈴木佳子

ワークショップの内容
 本の読み聞かせ
 「どうぶつサーカス」
 紙芝居
 「ねずみちょうじゃ」
 封筒かみしばい作り



「どうぶつサーカス」知らないお話に興味を示し、ブタ君が飛んだ時にはどうかと心配そうに見入っていた。見事に成功！笑みがこぼれた。最後に「虹ができてるな～」とつぶやいた子もいた。「封筒紙芝居づくり」では、みんな夢中になり各々の発想で取り組んでいた。最後にみんなの前で自分の作った封筒紙しばいを自慢げに披露発表した。帰り際に玄関まで来て「また来てね～ 明日も来てね～」と言っていた。



子どもの声

- ・楽しかった。
- ・面白かった
- ・たくさんのシールを貼れて良かった。
- ・自分の思うように作れた。
- ・いくつも作れてうれしかった。

施設関係者の声

- ・いつもの職員とは違う関りをする中で社会性を学べたと思う。コロナ鍋で行動制限があり、外部との関りが、少なくなっている中で、貴重な時間だと感じられた。
- ・紙芝居・工作に全員参加することができた。工作は説明も良く理解でき職員の手を借りることも少なく自分の力でできた。シールを貼ったり絵を描いたり集中して取り組めた。最後に発表することができて良かった。
- ・みんな集中して楽しく取り組めた。
- ・わかりやすく、また興味が持てる絵本と紙芝居。子ども達もす～っと入り込んでいたようだ。シールも様々な物を持参していただきありがとうございました。次に会えることを願っている。大人も心から楽しめた。

⑭大成会不二学園「第1部冬のおはなし・第2部作ってあそぼう」

日時：2020年12月8日（火）①10:00②10:30～11:15

場所：女子棟1階プレイルーム
 参加者 14人
 （子ども6人 施設関係者8人）
 指導者：飯野真子、古賀恵美子、高橋裕美 松本裕子

ワークショップの内容

- 【冬のおはなし会】
- ・手遊び「ぶたの手袋」
 - ・エプロンシアター「にんじん、だいこん、ごぼう」
 - ・絵本「ぶたたぬききつねねこ」
 - ・大型絵本「まどからおくりもの」
- 【作ってあそぼう】
- ・クリスマスのペーパークラフト3種



第1部・何が始まるのか、興味津々の様子。手袋で作ったぶたが出てくると1匹2匹…と一緒に声を揃えて数えた。お話が始まるとジーッと見て指導者の問いに、はにかみながら答えていた。絵本では、しりとりが進むのを目で追い、繰り返し声に出していた。エプロンシアターや大型絵本は初めて体験する様子だった。第2部・工作は、楽しそうに取り組んでいた。絵を描くのが好きな子やシールを貼るのが好きな子、初めて使うハサミを気に入ってずーっと紙を切っている子もいて、それぞれが自由に好きなことを続けて個性が出ていた。

施設関係者の声

- ・子どもたちは普段見慣れない物で、すごく静かに集中して聴いている様子で、新鮮だった。
- ・子どもと一緒に作成できる作り方を教えて頂きとても勉強になった。子どもたちにも教えてあげたいと思った。
- ・おりがみ、絵本が子どもたちが興味のあるものだったので、QOL向上になったと思う。翌日からおりがみやろう、と、おりがみで色遊び、数遊びと遊びの幅が広がった。
- ・いつもは絵本の読み聞かせを途中で飽きてしまう子も真剣にお話を聞いていた。マナーを解消できると思う。定期的に来ていただきたい。

子どもの声

- ・また来てね。
- ・みんなが帰っちゃうのがさみしい。

⑮放課後等デイサービス アフタースクールむぎ畑「のんびり&じっくり♡クラフトタイム」

日時：2021年1月5日(火) 13:30~15:30

場所：学習室

参加者 16人

(子ども10人 施設関係者6人)

指導者：市川淑江 塩沢千秋 椎名好子 長谷川詠香

ワークショップの内容

キーホルダーと
スポンジケーキ作り



子どもたちは、待ってました！さあ、作るぞ！と目を輝かせてキーホルダーのビーズやスポンジケーキの材料を選び始めた。キラキラした物が大好きな子が多く、自分の作りたい物を明確にイメージして一生懸命作っていた。星の形のビーズに糸を通すのが細かい作業で難しかったが、通せなくてもあきらめず何回も繰り返してがんばっていた。自分の好きなキャラクターと色を揃えてキーホルダーやスポンジケーキを作りあげ、スマホで写真をとって職員や私たちにも笑顔で見せていた子がいた。子どもたちは一緒に参加した職員や私たちとおしゃべりしながら、のびのびと楽しんでいた。



子どもの声

- ・スポンジケーキは、いろいろなものをのせてたのしかった。キーホルダーは、いろいろなものがあつた。ぼくはくろにした。むらさきやきいろのアイロンビーズのビーズをつけた。すごくおもしろかった。
- ・組み合わせが難しかった。
- ・お母さんにプレゼントするのでお母さんが好きな色にした。
- ・「ぼくはみどりが好きだからみどりにした」とビーズを緑色系に選び直し完成させた。

施設関係者の声

- ・どの子どももおだやかな表情で取り組めていたので安心した。
- ・1人ワンセットにしてあり、普段は細かい作業をやりながらいない子どももやりやすく自信につながったと思う。QOL向上の土台になる活動と感じた。
- ・だれかが楽しそうに作っていると他の子どもも無関心ではなく興味を示したのがすばらしいと思う。自由な飾りつけも自分らしさを考えて作る想像力の向上になると思った。
- ・いつもの工作だと「イヤだ」としない子ども職員以外の人だと静かにやり方を聞いていた。その子なりに考えて色んな人とコミュニケーションをとっていると感じた。

⑯野菊野子ども館「ダンスワークショップ」

日時：2020年2月13日(土) 13:30~14:30

場所：ホール

参加者 22人

(子ども11人 施設関係者4人 保護者7人)

指導者：安西真幸 安西千紗 宇野京子 棚田純子

ワークショップの内容

準備運動 ストレッチ 足じゃんけん 文字を身体で表現
ダンス振り付け「あいうえお」
(LineTownの主題曲)

指導者マーちゃんは大人気で開始前から質問攻め。何歳ですか？内緒です！。足指グーチョキパーから、身体中を使った遊びのようなストレッチは叫び声のような笑い。側転、Y字バランスをする子に「いいね！できてる！」の声掛けで一層盛り上がり、「見て！見て！」アピールに。ランニングマンのステップ、足ジャンケン、手の振りに音楽と合わせると動きの大きい見事なダンスが完成。ひらがなを身体で表現するクイズのリレーでクールダウンし、ペアになり2文字のクイズ(さい、いす、わに等)を考える相談は真剣。最後のダンスは大乗り、次々とペア文字を表現し、動と静の混じったダンスに仕上がった。アップテンポでかわいくて、頭と身体じゅうを使ったダンスだった。「みんなで考えてよかった！身体と頭を使ってすごいよかった！」と指導者。



子どもの声

- ・最後にやった表現するのが一番楽しかった。ダンスをおしえてくれてありがとう。
- ・あつくなってうんどうかいになっておもしろかった。
- ・最初は少しくんちょうしたけど、だんだんおもしろくなってきた。またやりたい。文字を表わすところもとてもたのしく工夫や考えられていてとてもよかった。パーフェクト！
- ・先生とまたダンスをしたい。今度学校にも来て！えのもじで え をやったらおなががいなくなったよ。

施設関係者の声

- ・全員参加のダンスワークで楽しかった。なかなか入れない子どももいたが最後は笑顔になっていた。
- ・コロナ禍のなかで、体を使っての遊びも制限されて、久々の身体表現に楽しそうだった。

⑰児童発達支援事業所 結「おさんぽぶたさんと遊ぼう！」

日時：2020年2月22日（月）10:00～11:00
 場所：保育室
 参加者 16人
 （子ども10人 施設関係者6人）
 指導者：加形ふみ子 買場都明
 宇野京子 井澤智子

ワークショップの内容
 ペープサート「ふしぎな卵」
 「ひなまつり」
 もちつきあそび
 風船工作「おさんぽぶたさん」を
 作ってあそぶ



お雛様7段飾りのできあがり



子どもの声
 ・たのしかった

いろいろな形の卵に子どもたちがワクワク、何が出てくるか?茶色い卵には、「チョコレート」の声が飛んだ。意外なものが出て「ほう!!」。卵からお雛様が出て、びっくり!表情豊かに感情が出ていた。おさんぽぶたさん、好きな色の風船を選んで、パーツを貼るが、シールを張るのが楽しくて、ほくろをたくさん貼っていた子もいた。できたぶたさんをひっぱりながらお散歩あそび、二匹を連れていた子もいた。ジャンプさせて、ポヨンぶたちやんにうれしそうだった。



卵から出てきたウルトラマンと大きな声でじゃんけん。

施設関係者の声

- ・ペープサートでは、手を動かす動作や動物の動作などで、全身を使って物語に参加し、次に演者の方が何をするのか集中することもできて、とても楽しんでいました。おもちつきやわらべうたもあり、おもちをキャッチで来た時の「やったー」という表情がうれしさを爆発させていた。工作では、シール貼りをすることで指先を使うことに集中し、各自の思い思いのぶたさんを作る事ができ、完成するとお部屋中をお散歩したり、「ぎゅー」と抱きしめたり、今まで見られなかった姿を見ることができた。
- ・参加型のパネルシアターは、子どもたちも積極的に参加していて「やりたい」「やってみたい」という意欲がよく見られていた。

⑱放課後等デイサービス・ハクナマタタ「革のアクセサリを作ろう！」

日時：2020年2月26日（金）16:00～17:00
 場所：活動ルーム
 参加者 17人
 （子ども10人 施設関係者7人）
 指導者：井澤智子 楠千枝子 買場都明 斯波優江

ワークショップの内容
 革の話
 革でしおりや飾れるアクセサリを作る



パーツ選びに悩んでいたが、席に戻るといろいろ並べて楽しんでいました。厚みや、色、手触りの違いを感じ、みな違う作品が生まれてきた。思いもよらない色合わせをする子。スパンコールのキラキラを選んでいく子等。「俺センスないからなあ。むずかしいなあ」と言いつつも、「小説読んでるから葉を作る」と決めていて、イニシャルを切り抜き2つ作った。「猫が好き!」といくつも作る子も。革に興味を持った。

子どもの声

- ・たのしかった。たくさんつくった。目をつけるのがむずかしかった。またやりたい!
- ・今日は、革で、キーホルダやしおり作りなど、できて、とっても楽しかった!!また、革で作ってみたい!!私は、ユニコーンとしおりとうさぎをつくりました!!このさくひんは、大切にしたい、家で、かざります!!楽しい時間をありがとうございました!!

施設関係者の声

- ・革製品について学べることや材料を切って・貼って・紐を通してなど指先の訓練にもなりました。また指導者が地域のNPO団体であったことも子供たちが地域とつながる良いきっかけになったと思います。なにより子どもたちが純粋に楽しそうだった。
- ・製品としての革でなく材料として革に触れる機会を持てたこと。革を自分の手で加工することができたこと。いろいろな厚さ・手触りを感じられたこと。特別な体験をしたという満足感が得られたこと。などでQOL向上を感じられた。
- ・いつもの指導員以外の方が来て、指導内容やアドバイスにとっても新鮮な気持ちで活動できた。

今年度の取り組み経過概要 ～コロナ禍で～

- ①計画していた20か所のうち、病院7か所、養護施設4か所がコロナ感染予防のため外部の入室ができないということで実施できなかった。そこでQOL向上を必要だと思われる児童福祉施設での実施を考え、放課後等デイサービスや養護施設14施設に声をかけ、そのうちの7施設で実施が決まった。事業や当団体を知り、コロナでなければやりたいという声は多く、次への足掛かりとなった。閉鎖感のある子どもたちへアートによるコミュニケーションはQOL向上に効果的であることが理解された。
- ②当団体ではコロナ感染防止対策のガイドラインを作成し、事業実施14日前から健康チェックシートで、指導者・スタッフの健康チェックをして臨んだ。また、各施設のガイドラインに基づき、感染防止対策の徹底をし、安心と安全を可能な限り保証することを心がけた。

事業の成果と課題

- ①普段の生活の課題とニーズを把握し指導者を選び、遊びや体験ワークショップを提供した。コロナ禍で病院での実施が予定通りにはかなわず、QOL向上を必要とする実施個所を挙げ、1病院7児童相談所3児童養護施設4放課後等デイサービス2児童施設で計18回実施し、512人(子ども367人 大人145人)が参加した。
- ②コロナ禍であったことで、新たな実施個所の開拓ができた。この事業への理解が広がり、こうした活動を希望している施設が多いことを知った。ネットワークづくりをすすめる手がかりができた。
- ③施設職員の自由記述のアンケートからは、子どもたちの気持ちが開放されてうれしそうで笑顔になったことを一番の成果として挙げ、やってみたい・またやりたいと意欲につながったこと、他者とかわることで社会性が身につくこと、優劣・勝ち負けのないワークが子どもの表現力や想像力を引き出し、自己尊重・自己肯定感を高めたこと等々が効果として示唆されている。加えて指導者の力が子どもたちの意欲・関心や、子どもが本来もっている生きる力を引き出し、安心した環境での実施を評価している。
- ④子どもの感想からは、最高の日でした、たのしかったー、自分の知らない世界にはいろいろなものがあって何事も挑戦ということを知りました、みんなが帰っちゃうのがさみしい、外にも行けなくなっている中、来てくれてありがとう、みんなが笑っていてうれしかった、というのもあった。ポジティブに楽しめた1日になったことが推測できる。当日参加した当団体のスタッフは、実施前と実施後では子どもの表情が変わり、心からイキイキとした様子を実感し感動的な場面に何度も遭遇した。子どもは力をもっている！
- ⑤コロナ禍でも県内すべての児童相談所で、強い実施希望と方針があって実施できた。長く継続してきた千葉県センターへの信頼が高まっている。また放課後等デイサービス等、新たな実施なども加わり、次年度への実施の期待も高い。
- ⑥コーディネーターの役割を改めて感じた。子どもたちの興味、行動や作業の普段の手順や不得意、職員の取り組みの目的や希望も聞き、一緒にプログラミングしていくことが大事である。それでも子どもたちは、職員の想像を超えて独自性を発揮した。
- ⑦今年度一番残念だったのは、病院に届けられなかったこと。課題は県内各地に指導者の人材を発掘し、ワークのプログラムを豊かに広げていくことです。



【コーディネーター】 市川淑江 宇野京子 大塚るい 大森智恵子 岡田泰子 買場都明 加藤香都代
笠原直子 桑原信子 椎名好子 塩沢千秋 白鳥みゆき 鈴木佳子 高橋知子
滝口淳子 棚田純子 戸田綾 中川香子 中村雪江 中村幸恵 早川良美
綿貫のばら

◆心が開放され、楽しい、喜び、笑顔がたくさん

- ・コロナ禍で外にも行けず施設内で長くいた子どもたちが、思い切り体を動かし、心まで開放されて嬉しそうな明るい表情になった。
- ・新しい体験をして、終了後も「はじめてやった」「たのしかった」と発言が多くあり、笑顔が増えた。
- ・普段触れることがあまりない音楽や楽器に触れることができ「楽しかったー！」と嬉しそうだった。音色、声色がとても心地よく、心があらわれた。
- ・子どもたちも汗をかきながらもとても楽しんでいる笑顔が見られた。純粹に楽しんでいた。
- ・苦手だと言っていた子も最後は一緒に動いて良い雰囲気になった。楽しく体を動かす喜びを感じる事ができた。
- ・普段誉められることが少ない子たちですが、動き一つ一つをわかりやすく教えてもらい、できるようになった喜びと、上手にできて認めてもらえた嬉しさを感じる事ができ、表情が大変良かった。
- ・普段体験できないようなエプロンシアターや大きな絵本に、子どもたちは真剣な表情で楽しんでいた。
- ・制約やルールがあり、十分に材料を使って製作するのは難しいこともある。その中で、自由に選ぶことが出来たので貴重な体験ができた。
- ・いつもは落ち着きがなく遊びが続かない子も、様々なアイテムに興味を持って工作し、職員が見たことのない姿を見ることができうれしい気持ちになった。他の幼児たちも、いつもは触れられない器具を使用し新しい発見をすることができたと思う。子どもたちの沢山の笑顔を見られて幸せな時間になった。
- ・普段とちがう体験を通して気分転換や心の開放につながったのではないかと思う。
- ・指導者の明るさと楽しい進め方で、安心して思いっきり元気に弾ける子どもたちの様子がみられた。

◆人とかかわることで社会性が広がる

- ・人とかかわることが苦手な子どもが多い中、積極的に動いたり質問したりしている姿が見られ、日常生活に繋がっていくと思う。大きな成果である。
- ・工作する楽しみはもちろん、非日常的な人や物とかかわることで QOL プラスの反応がでるはず。
- ・外部の方を招き、いつもの職員とは違う関りをする中で社会性を学べたと思う。コロナ鍋で行動制限があり、外部との関りが少なくなっている中で、貴重な時間だと感じられた。とても新鮮な気持ちで活動できたと思う。
- ・いつもは「イヤだ」という子も、職員以外の人だと静かにやり方を聞いていた。その子なりに考えて色んな人とコミュニケーションをとっていると感じた。かなり難しい作業も、あきらめずにがんばって仕上げていた。
- ・指導者が地域の NPO 団体であったことも子どもたちが地域とつながる良いきっかけになったと思う。
- ・来て下さった方々に、あいさつやお礼が言えることで、社会性のスキルにつながった。
- ・自分なりに講師の方にアピールしていたが、結構そのアピールの仕方が個々違って面白くもあった。そういうのが自主性・主体性に繋がるんだなと感じた。

◆プロのアートで感覚や感情の発達に

- ・本場のパーカッション、ヴォーカルなど、生演奏の迫力に圧倒された。子どもの生き生きした表情(生活面ではあまり目にすることのない)を見たときに、テレビや CD から聞く音楽とは比べものにならない、生演奏ならではの効果を実感した。子どもの感覚や感情の発達につながり QOL 向上につながると思う。
- ・プロの芸術家から褒めてもらう、君はすごい！と言ってもらうと、照れているが嬉しそうな表情をした。出会えて本当によかった。

◆創造性 表現力 自己発揮

- ・自分で試行錯誤しながら作ることができ、創造力を大きく膨らませ自由に表現できた。
- ・「うまい」「へた」とか「できる」「できない」などの、優劣がつかない環境の中で、伸び伸び自己発揮できることが、特に相談所の児には必要であると改めて感じる。
- ・材料のある中で、自由に考えて作っていいよ!!と言われ、子どもたちは目をかがやかせて好きな作品を作る経験をした。生活、発揮能力が向上したと思う。
- ・音楽に合わせて体を動かす楽しさを感じ、思ったことや感じたことを体で表現できた。
- ・支持を必要とする子どもたちが多く中、自分で考えて絵を描き、ストーリーを作り上げていく様子（一人も脱落することなく）は、子どもの表現する力を発揮することができた。

◆やってみたい、やる気につながる、ポジティブに働く心理的影響

- ・やってみようと思う子が多数いて、終了直前まで教えてもらおう子もいて驚きがあった。
- ・普段けんかをしている子たちが、楽しそうに関わっている姿を見られてダンスの偉大さを感じた。
- ・ワークショップ後も、子どもたちの中で「ダンスをしたい」という声も出てきた。QOLの構成領域の中の「身体的領域」「心理的領域」において向上が図られたと思う。具体的には体の動かし方や体力の向上、ポジティブに働く心理的影響が挙げられると思う。
- ・遊びの中でリズムを刻んだり踊ったり歌ったりしていた。
- ・翌日からもおりがみやろう、どうやって折るのと聞いたり、おりがみで色遊び、数遊びと遊びの幅が広がった。
- ・一週間たっても、また作りたい!!と思う子どもがいて何度も楽しんでた。後日も制作に集中して取り組んでいる様子が沢山見られたことから、子ども達の満足度の高さを感じた。今後の生活の QOL の向上にも繋がったと感じた。

◆視野の広がり、考え方の広がり

- ・「まわりを見てまねして良いんだよ」という言葉が子どもたちにとって安心につながったようだ。
- ・体験したことのないことを体験できたことは、これからの生活にどこかで生かされると思う。
- ・だれかが楽しそうに作っていると、他の子どもが無関心ではなく興味を示したのがすばらしいと思う。

◆自己肯定感

- ・普段体を動かす機会が十分とれないため、大変貴重な時間だった。また、“できた”という体験が多く、自己肯定感が低い子どもたちにとっては意味が大きいと感じた。
- ・一人ワンセットにした準備は、普段はあまり細かい作業をやりたがらない子どももやりやすかったようで、本人の自信につながったと思う。QOL 向上の土台になる活動と感じた。
- ・好きな材料を自分で選んで組み合わせる、それが肯定的に評価される経験は子どもたちの「成功」として生きてくると思う。

◆職員の意識変化

- ・施設の生活でも体操やダンスをよくするので、教えてもらった動作を取り入れていきたい。
- ・普段目立たない児童の違った一得意なことを知るきっかけになった。
- ・太鼓の演奏やすてきな歌声で心躍り、子どもたちよりも楽しんでいる自分がいた。
- ・子どもと一緒に作成できる作品の作り方を教えて頂きとても勉強になった。子どもたちにも教えてあげたい。
- ・こども達の表情が豊かだった。体を動かすことの必要性（特に今のコロナ禍）を強く感じた。今後体を動かす機会を作っていきたいと思った。

令和2年度文化芸術による事業に関する 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター 新型コロナウイルス感染防止ガイドライン

文化芸術による事業を進めるにあたり、新型コロナウイルス感染拡大予防対策として、常に子どもの心身に影響を及ぼさないよう「子どもの最善の利益」を視点におき、とりくむことをガイドラインにまとめました。

1 子ども劇場千葉県センター組織としてとりくむこと

- ・集まる機会、人数を少なくし、施設の定員1/2までとします。発熱のある方、体調不良の方利用、入場を遠慮してもらいます。
- ・施設利用中、出席者はマスク着用の上、距離をとり、換気を行い3密（密閉、密集、密接）にならないよう留意します。
- ・出席者に対し、手洗い・消毒を行い、大声の会話を慎むようよびかけます。
- ・複数の人が使用するトイレ、洗面所、お茶道具をこまめに消毒、洗浄します。
- ・配布物は手渡しを行わず、据え置く方法で行います。
- ・事務局職員、役員は出勤前に検温、新型コロナウイルス感染症状の有無を確認し、体調不良の時は、休養を促し、自宅待機とします。
- ・施設内のゴミの処理、廃棄を徹底します。
- ・外部施設の利用、事業を進めるにあたり、管理する自治体や施設のガイドラインに対応していきます。

2 文化芸術による事業における新型コロナウイルス感染防止のとりくみ

- ・事業実施にあたっては、本ガイドラインそって適切に対応します。
- また、施設のガイドラインにも柔軟に対応します。
- ・施設に配置するコーディネーターは実施に関わる指導者、スタッフの健康管理を「健康チェックシート」で確認してから活動を開始します。新型コロナウイルス感染症状の有無を確認し、体調不良の時は、自宅待機とします。
 - ・コーディネーター、指導者、スタッフはマスク着用して行動します。
 - ・コーディネーターは実施会場へ消毒液、除菌シートを用意して持参し、対応します。
 - ・ワークショップ会場と指導者控室の換気に努めます。
 - ・ワークショップ会場での参加者同士の距離のとり方や大きな声の発声などは、指導者と内容を確認したものを施設との事前打ち合わせで示していきます。
 - ・コーディネーターは指導者とスタッフの健康状態を施設担当者と確認後、会場への入場をはじめます。（2週間の健康チェックシート）
 - ・ワークショップ中に使用する機材、用具、教材の扱いは不特定多数の共有を制限するよう配慮します。
 - ・「アンケート」・パンフレット等は手渡し配布を避けます。

「病院、児童相談所、児童養護施設の子どものQOL向上あそびワークショップ体験」報告書

発行日 : 2021年 3月 20日(土)

発行者 : 特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

発行所 : 特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102号

TEL : 043-301-7262 FAX : 043-301-7263

メールアドレス : kidchiba@lily.ocn.ne.jp

この報告書の内容を無断で引用・転載することはかたくお断りいたします

 National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう